

家屋の滅失、三年に一度の評価替の年にあたるという状況判断のもとで見積もった。

競艇事業収入については、長引く景気の低迷による公営競技全般の落ち込みと、蒲郡競艇場の十四年度の実績、新年度のナイターレースの開催環境等に留意し見積もったものであり、適正なものと考えている。

経費の削減については、予算編成上は経常経費の一割削減という厳しい姿勢で取り組んだ。今後も、行政改革による市職員の適正規模見直し、補助金の見直し、民間委託の積極的実施や事務事業評価システムの導入による事業の見直し等により経費の削減に努力する。

なお、「生命の海科学館」は、内容の検討をして、見直していきたい。



松本昌成（公明党）

障害者支援費制度の内容は

内容は

問 障害者が事業者との対等な関係に基づいてサービスを選択し、契約によってサービスを利用する障害者支援費制度が施行される。その内容について伺う。

答 二月末現在で既施設利用者百四十名、居宅生活支援は四十名の方から申請を受けており、利用者負担は国の基準により負担していたが、区分の細分化等により増減がある。居宅介護支援については、支給量については上限は設けない考えであり、供給体制については、介護保険事業者の参入の依頼をしているところである。

相談業務は福祉課で行っており、障害者ケアマネジメントについては、モデル事業として取り組んでいる自治体を研究していきたいと考えている。

支援費制度が始まったことによる障害者計画の見直

しは、法律の改正や国の基本計画の内容を見ながら検討していきたい。

公用車を集中管理しては

しては

問 公用車を有効に使うため、各課単位ではなく集中管理をしてはどうか。

答 経費削減と公用車の有効利用、管理・安全対策等考慮すると、本市では部単位による分散管理が最善の方法ではと考えている。

- その他の質問
- 1 構造改革特区
 - 2 総合計画の実施計画
 - 3 資金繰り円滑化借換保証制度



公用車は部課単位で管理されている

柴田安彦（日本共産党）

ホシハジロ飛来地の保全を

問

ホシハジロの飛来地として全国一位（世界二位）と言われる鹿島町地内の池が、開発により埋め立てられようとしている。「ラムサール条約」で国際的に重要な湿地にも該当すると認識しているがどうか。

民有地であるが、環境と生態系を維持し、貴重な財産を守るため、地権者の理解を得られるよう市が積極的に努力すべきではないか。

答 鹿島町地内の池に飛来するホシハジロの数は年々減少傾向にある。これは海域沿岸工事が一段落し、海域にも分散し生息するようになったためである。このようなことから、池の存在価値は低下していると認識している。

地権者の理解を得るため、固定資産税を軽減したり、土地を購入することは考えていない。

生命の海科学館の資料について

問

蒲郡市の購入した資料の一部は、外形・断面の模様・大きさから神奈川県「生命の星・地球博物館」の資料と一体の物であったと思われる。また、一本もので価値があると思われる珪化木は連続性がない。市は承知していたのではないか。このことは、市の購入価格の妥当性を揺るがしかねないものである。改めて入手の経過など再調査を求めらる。

答

化石の購入に関する住民訴訟は一審判決が下されたが、いまだに係争中であるので答弁を控えている。



生命の海科学館に展示されている珪化木